

言語研修生募集要項

ILCAA Intensive Language Courses 2018

言語研修について

この研修はアジア・アフリカ言語文化研究所が研究者養成事業の一つとして開催しているもので、アジア・アフリカ地域での現地調査・研究や専門的業務に役立つ現地語の習得を目的としています。日本の専門研究者と母語話者が講師を務めます。

大学在学学生、大学卒業者または上記の目的に必要な学力及び動機をお持ちの方であれば、ご応募いただけます。

募集言語について

ヨルバ語、メエ語(エカリ語)「フィールドメソッド」、土族語

各言語の研修期間、研修時間など、研修内容についての詳細は、それぞれのページをご覧ください。

募集定員について

各言語 約10名 (当研究所で書類審査により選考します。)

募集期間について

第一次募集期間: 2018年5月1日(火)～2018年5月25日(金)

受付時間 午前9時30分～午後5時 (正午～午後1時を除く)

持込みの場合、土・日・祝日を除きます。

郵送の場合は、5月25日(金)必着です。

Eメールの場合は、5月25日(金)日本時間午後5時必着です。

定員に満たない場合は、二次募集を行います。定員に達すれば、二次募集はありません。

第二次募集期間: 2018年6月1日(金)～2018年6月26日(火)

受付時間 午前9時30分～午後5時 (正午～午後1時を除く)

持込みの場合、土・日・祝日を除きます。

郵送の場合は、6月26日(火)必着です。

Eメールの場合は、6月26日(火)日本時間午後5時必着です。

応募方法について

所定の受講申込書に必要事項をご記入の上、在学証明書又は最終学校の卒業証明書(写)を添えて、お申し込み下さい。

※申し込み方法は、直接持ち込み、郵送、Eメールのいずれかとします。

※申込書に記入いただくEメールアドレスは、選考結果通知PDFをお送りしますので、ilcaa-ilc@tufs.ac.jp からPDFファイルが受信できるアドレスをご記載ください。

※郵送の場合は、封筒の表に「言語研修〇〇語申し込み」と朱書き願います。

受講申込書送付先および各種問い合わせ先について

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所2階206室

研究協力課共同研究拠点係

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

TEL 042-330-5603, FAX 042-330-5610

Email ilcaa-ilc@tufs.ac.jp

選考結果について

受講の可否は、一次募集応募分については、6月末までに本人あてにEメールにて通知します。二次募集を行った場合は、7月下旬に本人あてにEメールにて通知します。

受講手続きについて

受講を許可された方は、所定の期日までに、研修言語ごとに定められた額の受講料を一括納付して下さい。

受講料等は各言語ごとに異なりますので、それぞれのページをご覧ください。

受講料振込先情報および振込期日は、選考結果通知に記載してあります。

口座振込に係る手数料はご負担ください。

修了要件と修了証書について

研修言語ごとに定められている授業時間数の3分の2以上出席し、かつ所定の成績を収めた受講者に修了証書を交付します。

文化講演について

研修期間中、文化講演として、担当講師以外の外部講師を招いた授業を取り入れています。文化講演は一般向けに公開することがあります。

受講までの流れについて

受講申込



郵送, Eメール, 直接お持込にてお申込みください.

確認メール送信



郵送またはEメールにてお申込みいただいた方には, 受付確認メールをお送りいたします.

選考結果通知をメール送信



選考を通過された方には, 受講料等振込先および, 初日の集合時間等についても, あわせてご案内いたします.

受講料振込



通知書に記載された期日までに, 受講料等をお振込みください.
振込手数料は自己負担となります.

受講料振込確認メール送信



期日までにお振込が確認できない方には, 事務局から確認メールをお送りします.

研修に関する連絡をメールにてお知らせ



各言語ごとにメーリングリストを作成し, 必要に応じて, 研修に関するご連絡を差し上げます.

研修開始

受講上の注意について

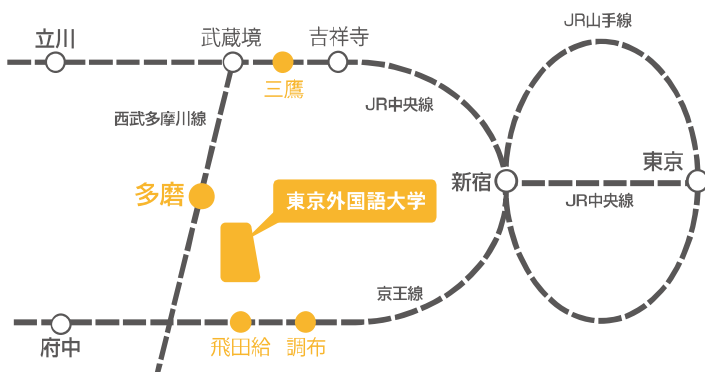
- 会場には駐車場はありません。受講時は公共交通機関をご利用ください。
- 本研修の受講生は正規の学生ではありませんので、学割定期券の購入はできません。
- 宿泊施設については、ご自身でご手配くださいますようお願いいたします。

研修会場について

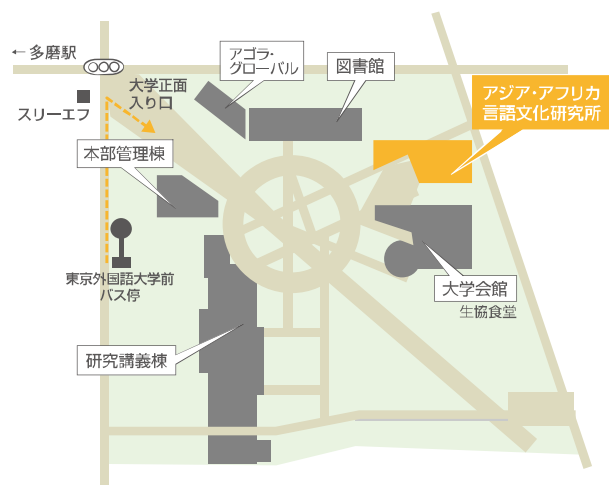
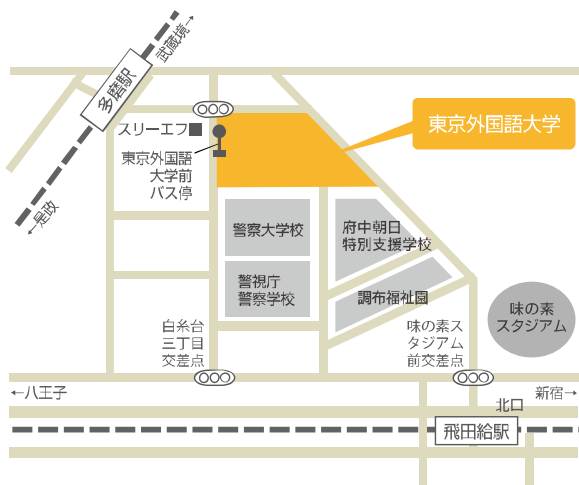
東京会場 [ヨルバ語, メエ語(エカリ語)]

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
TEL 042-330-5603, FAX 042-330-5610

AA研へのアクセス



- JR中央線「武蔵境駅」から西武多摩川線に乗り「多磨駅」で下車(所要5分)。駅から徒歩5分。 ※西武多摩川線は12分間隔。
- JR中央線「三鷹駅」から小田急バス鷹52系統に乗り「東京外国語大学前」で下車(所要30分)。停留所から徒歩2分。
※小田急バス時刻表:
<http://www.odakyubus.co.jp/cgi-bin/search/mapsearch.cgi>
- 京王線「飛田給駅」から京王バス飛02系統・調33系統(いずれも多磨駅行き)に乗り「東京外国語大学前」で下車(所要7分)。停留所から徒歩2分。
- 京王線「調布駅」から京王バス調33系統(多磨駅行き)に乗り「東京外国語大学前」で下車(所要20分)。停留所から徒歩2分。
※京王バス時刻表: <http://www.bus-navi.com/>



大阪会場〔土族語〕

貸し会議室 日本研修センター 十三（阪急十三駅西口より徒歩3分）

〒532-0024大阪市淀川区十三本町1-12-15

ドルチェヴィータ ファースト 3F 会議室A

TEL 06-6302-4040, FAX 06-6302-4048

新大阪から地下鉄・阪急利用の場合

「新大阪」駅から大阪市営地下鉄御堂筋線（なかもずまたは天王寺方面行）にて「西中島南方」駅下車，阪急千里線「南方」駅（梅田方面行き）に乗り換え「十三」駅下車。

新大阪からJR利用の場合

「新大阪」駅からJRにて「大阪」駅下車，阪急線「梅田」駅に乗り換え「十三」駅下車（すべての電車が十三駅に停車します）。



ヨルバ語

》 初学者向け 》 東京会場 》 日本語での授業

ヨルバ語はナイジェリアで、ハウサ語、イボ語と並んで三大言語のひとつされる言語です。話し手の数は3000万人以上と言われます。スワヒリ語と同じニジェール・コンゴ語族に属しますが、スワヒリ語などのバンツー諸語とはタイプの異なる言語で、学習に際し、スワヒリ語の知識はまったく役に立ちません。

ヨルバ民族とその言語は、アフリカでも古くから関心を持たれ、研究されてきました。今回ヨルバ語を学ぶことで、文学や音楽などヨルバ語による芸術に直接触れることができますようになります。

本研修では、ヨルバ語の発音と文法を学び、初歩的な会話練習、簡単な読み物と進み、講座修了後には独学で学んでいける語学力を目指します。

研修の対象者について

広くアフリカの言語に関心のある方を対象とします。

研修内容について

日本人講師は発音および文法の説明、練習問題を担当、ネイティブ講師は発音指導、会話の練習を担当します。ヨルバ語は高中低の三声調を基本とする言語なので、初めのうちは発音の訓練が主になります。後半では、練習問題を多く用意し、学んだ文法・語彙知識と練習問題文を応用して新しい文を作る練習もおこないます。また会話以外にも講読もおこないます。

テキストについて

準備中です。

研修期間及び研修時間について

2018年8月16日(木)～2018年9月13日(木) 120時間

午前9時00分～午後4時10分

ただし、8月16日(木)午前10時5分～午後3時5分

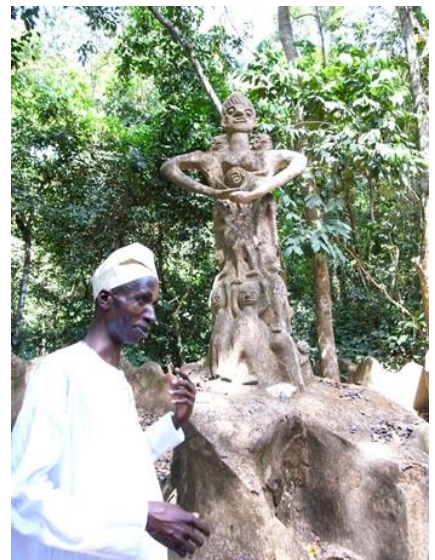
9月13日(木)午前10時5分～午後0時10分

(土曜日、日曜日は休講)

文化講演について

ヨルバランドおよびナイジェリアや西アフリカに関連した文化講演をおこないます(日程は未定)。詳細は後日ウェブサイトにてお知らせします。

<http://www.aa.tufts.ac.jp/ja/training/ilc/ilc2018>



受講料について

72,000円(教材費込み)

講師プロフィール

塩田 勝彦（しおた かつひこ）

現職:大阪大学, 兵庫県立大学 非常勤講師

1992年より98年までオーストリアのウィーン大学アフリカ研究所留学。アフリカ言語学を学ぶかたわら, 96年から98年までウィーン大学でヨルバ語の非常勤講師を勤める。

2000年より大阪外国語大学でハウサ語, ヨルバ語, アフリカ言語学等を教え, 2007年から2012年まで大阪大学世界言語研究センターにて特任助教。2012年より現職。

研究分野はアフリカ言語学, ヨルバ語学文学, ハウサ語学文学。



Qlágòkè ÀLÀMÚ（オラゴケ アラム）

現職:エキティ州立大学 准教授

2008年までナイジェリア・アバのナイジェリア言語研究所にて勤務。

2008年から2012年まで大阪大学世界言語研究センター特任准教授。2009年には大阪大学の語学研修で75時間のヨルバ語コースを担当する。2012年より現職。

研究分野はヨルバ語学文学。



メエ語(エカリ語)

》フィールドメソッド 》東京会場 》日本語での授業

メエ語はインドネシアのパプア州(ニューギニア島西部)で話されている非オーストロネシア諸語(いわゆるパプア諸語)の一つです。自称はメエ語ですが、対外的にはエカリ語として知られています。Simons(2017)によれば、話者数は約10万人で、この地域の言語としては話者数が多い言語です。

この言語は、Dobleによる文法概略(Doble1987)を除けば先行研究がなく、ドキュメンテーションもほとんど行われていません。そのため、今回の研修はフィールドメソッド方式、つまり、研修生がネイティブ講師の協力を得て、自分たちでメエ語の音韻・形態・文法を明らかにするという形を取ります。通常の研修とは異なり教科書はありません。あまり知られていない言語の調査にチャレンジしたい方、少数言語のドキュメンテーションに関心のある方の受講をお待ちしています。

(参考文献)

Simons, Gary F. and Charles D. Fennig (eds.). 2017. *Ethnologue: Languages of the World*, Twentieth edition. Dallas, Texas: SIL International. Online version: <http://www.ethnologue.com>.

Doble, Marion. 1987. A description of some features of Ekari language structure, *Oceanic Linguistics*, vol.26, No.1/2. pp55-113.

研修の対象者について

言語学に興味のある方、あまり知られていない言語の調査・記述・ドキュメンテーションに興味のある方をお待ちしています。

研修内容について

ネイティブ講師への聞き取りを通してチームとしてメエ語の音韻・形態・文法を明らかにします。本研修により、話者に協力を得て行う言語調査の基礎が身につくとともに、データの分析を通して音声学・音韻論・形態論・統語論などの知識も身につきます。また、言語ドキュメンテーションの技法(音声の録音やデータの整理・アノテーション付与の方法に関する技術・知識)が身につきます。

テキストについて

調査に用いる質問票などを含んだ「ハンドブック」を配付します。

研修期間および研修時間について

2018年9月3日(月)～2018年9月14日(金) 50時間
午前10時00分～午後4時15分 (土曜日, 日曜日は休講)

文化講演について

実施予定. 詳細は後日ウェブサイトにてお知らせします.
<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/ilc/ilc2018>

受講料について

30,000円(教材費込み)



講師プロフィール

塩原 朝子 (しおはら あさこ)
アジア・アフリカ言語文化研究所准教授
2006年, 東京大学にて博士号(文学)取得
1999年4月, 東京外国語大学に着任, 2006年4月より現職.
インドネシアのオーストロネシア系言語・非オーストロネシア系言語
の両方を調査・研究している.



Nawipa Dance (ナウィパ ダンチェ)
ジャヤプラ第四高校 日本語教諭
パプア人. メエ語の母語話者.
東京外国語大学で日本語を学び, 現在現地の日本語教育に精力的に携わっている.



土族語

》 初学者向け 》 大阪会場 》 日本語での授業

土族語は、中国・青海省の互助土族自治县と民和回族土族自治县を中心に居住している土族(中国の55の少数民族の一つ)によって話されているモンゴル系の無文字言語です。

言語学的には、中国の甘粛・青海省におけるモンゴル系孤立的諸言語、通称「河湟(かこう)語」の一つに位置付けられ、とりわけ保安(バオアン)語・東郷(ドンシャン)語・康家(カンジャ)語の三つの言語とは、比較的近い関係にあると考えられています。

土族語の方言は、互助土族自治县で話される互助方言(自称はモンゴルMongghul)と、民和回族土族自治县で話される民和方言(自称はマングォア Mangghuer)に大別されます。話者人口は、互助方言が推定10万人余り、民和方言が推定1万人余りです。しかも両方言差は、比較的大きく、相互のコミュニケーションは困難だと言われています。

本言語研修で取り扱うのは、上記の方言のうち、話者人口が少ない方の民和方言です。土族語・民和方言の話者を講師の一人として迎えて開講する本研修は、この地域の言語研究を志す人にとっては極めて貴重な機会であると言えます。

研修の対象者について

モンゴル語の既習者・専門家だけでなく、広く一般の初学者を対象とします。

研修内容について

土族語・民和方言の基本的な語彙・文例を中心に学習します。当言語の文法体系の概要を学ぶことができるほか、土族語による簡単な会話も可能になります。

テキストについて

「土族語文法」、「土族語文例集」、「土族語語彙集」の三冊を使用する予定です。

研修期間および研修時間について

2018年8月1日(水)～2018年8月31日(金) 120時間
午前10時00分～午後5時40分(土日及び8月13日～8月15日は休講)

文化講演について

実施予定. 詳細は後日ウェブサイトにてお知らせします.

<http://www.aa.tufts.ac.jp/ja/training/ilc/ilc2018>

受講料について

72,000円(教材費込み)



講師プロフィール

塩谷 茂樹 (しおたに しげき)

大阪大学言語文化研究科 教授

1991年, 京都大学大学院文学研究科言語学専攻博士後期課程単位取得退学. 1995年4月, 大阪外国語大学専任講師として着任. 2009年4月より現職.

研究分野はモンゴル言語学(特にモンゴル語形態論及び語彙論研究), モンゴル口承文芸(特にモンゴルのことわざと民話研究).



何 菊紅 (か きくこう)

大阪大学言語文化研究科言語社会専攻大学院博士前期課程大学院生

2014年, 中国青海民族大学外国語学院日本語専攻卒業. 2017年4月より大阪大学言語文化研究科言語社会専攻大学院博士前期課程に在籍.

